

東北次世代がんプロ養成プラン セミナー実施報告書

(セミナー名称) 東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野主催 9月がん看護勉強会 事例報告者：服部千恵子 所属：仙台厚生病院 テーマ：肺がん免疫療法とチーム医療における看護師の役割	
担当者氏名：佐藤 富美子 教授	所属：東北大学大学院がん看護学分野
内線：7926	Email:
1. 実施年月日： 平成 30年 9月 10日	
2. 開催場所： 東北大学医学部保健学科D棟 217号室 がん看護学分野カンファレンス室	
3. 関連分野： がん看護、呼吸器内科、チーム医療、腫瘍内科	
4. 対象者： がん看護に興味関心のある医療関係者・大学教員・東北大学大学院医学系研究科保健学専攻学生・東北大学医学部保健学科学生	
5. 参加人数：(お分かりの範囲で内訳をお知らせください。教員、学生など) 大学教員 3名、大学院生 2名(看護 2名)、医療関係者 1名 (消化器外科看護師 1、外来看護師 1名) 計 7名	
6. 成果： 報告内容は、がん治療の新たな治療の一つである免疫療法開始に伴い「肺がん免疫療法チーム」を設置し、診療及び看護ケアの実際及び課題について報告があった。 チーム医療については、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・医療相談係・医事係からなるチームを立ち上げ、免疫療法の副作用である irAE 対策のアルゴリズムを作成し、定期的見直しを行いながら改修していた。看護師は、医師の治療薬に関する補足説明、診察前の問診を利用した面談、多職種との調整を役割として行っていた。今後は、緩和ケアチームや化学療法センターとの連携が課題であった。 診療及び看護ケアについては、化学療法や分子標的治療薬とは異なり、副作用出現時期がいまだ不明瞭で、医療者は予測した副作用対策を行うことが難しく、患者教育は症状出現時に電話連絡や来院するように教育していることが現状であった。 成果は、免疫療法に対するケアとして、医療者だけではなく患者が症状を対処できる irAE のマネジメント確立が必要であり、今後の看護の課題として参加者で共有した。	

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

